

# 京都部落問題 研究資料センター通信

第40号

発行日 2015年7月25日 (年4回発行)

編集・発行 京都部落問題研究資料センター

## 報告二〇一五年度部落史連続講座

当資料センター主催の「二〇一五年度部落史連続講座」を京都府部落解放センターで、六月一二日、二六日、七月三日の三回にわたり開催しました。

### 第1回

#### 洛中洛外図にみる職能民の躍動

― 笹と籠をめぐって ―

講師 西山剛さん  
(京都文化博物館)

洛中洛外図は室町時代後期に登場し、京都の景観を屏風に描いたものである。そこには、時の権力者の秩序や名所旧跡とあわせて、文字資料にはなりにくい庶民の姿が的確に捉えられており、美術資料としてだけでなく歴史資料としても価値が極めて高い。今春、京都文化博物館で開催された展覧会「京を描く―洛中洛外図の時代―」の際の調査研究を踏まえて、多くの絵画資料を使いながら詳しく説明された。

デジタル技術の発展によって、高精度の図版が取れるようになり、現存最古の洛中洛外図である「歴博甲本」や「東博模本」には、井戸での洗濯や水汲み、子どもの喧嘩などの日々の取り留めない、そ

れでいて欠かすことのできない生活空間が町家のウラ空間として多く描かれていることが明らかになってきた。文献では知りえない重要な生活資料として洛中洛外図を読み解くことができるようになったのである。棹の先に生活道具を取り付けた銚子竹について図像を詳しく見ることによって、現在では失われた俗信とその作法について知ることが出来る。また、多くの商人の図像と共に出てくる笹が、特定の身分を表す象徴物でもあったことなどを文献史料もつかないながら具体的に説明された。

### 第2回

#### 絵画に見る中世非人の生活

― 京都・清水坂に生きた人々 ―

講師 下坂守さん  
(日本中世史研究者)

戦国時代、五条通(現在の松原通)には鴨川に中洲があり二本の橋が架かっていた。その橋を渡ると堀があり、その先は清水坂という集落で、そこから清水寺への参

道が続く。その参詣風景を描いた「清水寺参詣曼荼羅」には、橋を渡った所に粗末な小屋に座る二人の人物が描かれている。服装や持ち物から癩者が物乞いをしている風景で、後ろに描かれている長屋風の建物は癩者を收容した長棟堂であると推察される。当時の癩者は、すべてがハンセン病者であったかのかどうかはわからず、皮膚病の酷い者も含まれていた可能性がある。この癩者を管理・庇護していたのは坂者(非人)であった。坂者は、特徴ある柿色の衣や被り物を身につけ、葬儀の際に輿などの道具や施物を取り上げる権利を持ち、弓や弦、懸想文の販売なども行っていた。坂者の中でも、祇園社に奉仕する仕事をしてきた者は犬神人とも呼ばれ、祇園会の先頭を歩く清めの仕事などをしてきた。また、坂者と河原者は、仕事の内容から違う世界に住んでいたといえる。近世には、坂者は町人化していくのだが、河原者は引き続き賤視される存在であった。坂者の生活を絵画史料・文書史料をあわせて使い、詳しく説明された。

### 第3回

#### 絵画史料から見る

#### 千本地域の諸相

講師 野地秀俊さん  
(京都市歴史資料館)

平安時代には死体を遺棄する場所として知られ（蓮台野）、「葬送の地」というイメージの強い千本地域であるが、中世には花の名所として、千本ふんま堂の「普賢象（堂）桜」がよく知られていた。そして、この桜は販売されていたことが『看聞日記』に記されている。また、『洛中洛外図』や『京都地図屏風』にもこのあたりには桜や松などの樹木が豊富に描かれており、花の名所・植木の産出地としての側面がみられる。これらは野口の河原者との関係も考えられるが明らかではない。

また、藤原定家の「時雨の亭」の場所をめぐる史料からは、千本今出川周辺を中世の人々は「千本」と捉えていたことがわかり、現在の千本北大路周辺というイメージよりかなり南まで広がっていたことがわかる。しかし、近世になると、京都の火葬場「五三昧」の一つに挙げられるなど「葬送」のイメージが益々強くなり、蓮台野周辺が「千本」という認識が定着していったといえる。

このように時代によって地域のイメージも範囲も変わっていくことに留意する必要がある。こうした視点によって地域の新たな歴史や魅力の再発見にもつながっていくと説明された。

## 本の紹介

### 吉村智博著 『続かくれスポット大阪』

杉本弘幸

（京都工芸繊維大学・佛敎大学・立命館大学非常勤講師）

I  
本書は大阪人権博物館学芸員として、様々な展示・普及活動や各地の部落史編纂事業に関与し、活躍している吉村智博氏（以下敬称略）の三冊目の単著である。吉村は、既に専門書として、『近代大阪の部落と寄せ場―都市の周縁社会史』（明石書店、二〇一二年）を発表している。その重厚な研究成果をもとに、一般書として本書の姉妹編である『かくれスポット大阪』（解放出版社、二〇一三年）も発表するなど、近代大阪の「インナーリング」をめぐる著作を立て続けに世に問うている気鋭の研究者である。

本書のフィールドである近代大阪という都市では、明治末から大正時代にかけて、「インナーリング」と称される地域に零細な工場群が集積した。そこに工場労働者達の住宅地や歓楽街が出現する一方、その外側で計画的な土地利用が進展した結果、無秩序な市街地が同心円状に取り残された。その

結果、現在のJ R大阪環状線に沿って、工場地帯、密集した長屋地区、沖繩や朝鮮半島から来住した人々の定住地、日雇労働者の居住地などが「インナーシティ」として連鎖しつつ、存在することになったのである。

本書のリーディングでは執筆の意図を次のようにのべている。「大都市大阪は、近代に入り往還や街道、河川のいくつかも整備され、文化の普及とあわせて人的な交流も盛んにおこなわれていった。しかし、華やかさばかりでない面についても出てくることになる。それらは、墓所、火葬場などの共同利用施設、塵芥処理場、屠場など食と排泄にかかわる衛生施設、避病院や監獄など隔離収容施設、遊郭などの遊興施設として、近代の都市空間から峻別され形成された。そして部落やスラム、寄せ場に近接ないし内部に重層的に組み込まれ、外形的な平等・公平を担保する日本型「市民社会」（物理

的に市街中心部とその周縁）へと転形していくことになる。一方で、部落や貧困、スラム、寄せ場などの生活環境を改善・矯風していくための具体策も実践されてくる。

それには、内務省官僚、行政警察関係者、社会事業家、宗教家、教員などがその役割をになつた。前著『かくれスポット大阪』のエリアをもう少しひろげ、加えて社会事業をになつた歴史上の人物にややシフトして街歩き（紹介）をしたい」とし、本書における吉村の問題意識は明白で、「社会的包摂／排除」を基底とした近代大阪案内をおこなうとのべているのである。では、吉村の言う「社会的包摂／排除」とは、いったいなんなのだろうか？ まず「社会的排除」とは、一九八〇年代に若者の長期失業など、従来の社会保障制度では対応できない集団の存在に直面したフランスに起源をもつ言葉だとされている。これが次第に長期失業者層だけでなく、大都市の周辺部やスラムに暮らし、あらゆる面で通常の機会や制度から切り離された特定集団の問題全体を指すものとして使われるようになった。ヨーロッパでは、この用語をEUの新しい社会統合の中心としたた

めに、「社会的排除」の概念がい  
わゆる「貧困」に代わるものとし  
て急速に普及している。

現在、グローバルゼーションに  
よる労働市場の再編が、非正規雇  
用の拡大、外部化や下請け化とい  
うかたちで進行している。このよ  
うな世界市場での競争が、労働市  
場の変動をさらに加速させている。  
また、離婚率や未婚率の増加など  
家族の変容も指摘されている。こ  
うした変化のもとで、貧富の差の  
大きな社会へ移行しつつあること  
貧困の期間の長い「貧困経験者」  
が増加していることが、明らかに  
されはじめた。この「貧困経験者」  
の構成をみると、従来、高い比率  
を占めていた高齢層が減り、代わ  
りに若年者、一人親世帯、移民層  
の比率が高まっており、これらを  
「新しい貧困」と呼ぶ人々もいる。  
社会的排除論は、こうした「新し  
い貧困」の一部を、社会総体との  
空間的、制度的位置関係において  
捉え直そうとした概念といえる。

の動態的プロセスの中でしか把握  
されえないことも明らかになっ  
てきた。このような「排除」された  
人々を一般社会の中に戻していく  
政策やシステムなどを「社会的包  
摂」とよんでいる。

このような問題を取りまく状況  
は日本においても発展途上といわ  
ざるをえない。たとえば、近年  
「貧困」と「社会的排除」をテー  
マとする学術書を出版するにあつ  
て、次のような言説が見られた。  
「貧困、貧困地区、ホームレス、  
外国人労働者などの問題は、「理  
論・思想」や「システム・制度」、  
あるいは「高齢者や家族」のよう  
な主流ではないけれども、触れて  
おいた方がよいもの、といった程  
度の扱いでおかれることがよくあ  
る。ちようど、貧困者やその居住  
地区、ホームレス・外国人等が社  
会の周縁におかれているのと同様  
に、貧困や排除の研究それ自体も  
——とりわけ日本においては——  
周縁化されてきたのである。本巻  
の執筆者による研究打ち合わせの  
際に、この巻がもしそのような周  
縁化されたものを、一種のアリバ  
イ証明として、一括して押し込ん  
だようなものであるならば困る、  
という発言があつたことを覚えて

いる」（岩田正美・西澤晃彦編『貧困  
と社会的排除』、ミネルヴァ書房、二  
〇〇五年、三二三頁）  
吉村はこのような現状に疑義を  
呈しているのである。

II

では、本書の内容を紹介してい  
こう。以下、本書の内容を紹介す  
るにあたって、通例により、本書  
の目次を挙げる。

- 序論 都市大阪のなかの差別
- 続トピックス編
  - 監獄署と博物館
  - 市民館と社会部
  - 避病院と済生会
  - 善隣館と愛染園
  - 太鼓と皮革
  - 公教育と私教育
  - 水平と融和
  - 焼土と住宅
  - 仮小屋と生活館
  - 紹介所と自彊館
  - 労働者と診療所
  - 勤労と就学
- 補論 近代地図から読み解く都  
市大阪
- はじめに
- 1 大阪市区改正とその変遷
- 2 衛戍地としての城趾
- 3 身体の規律と学校・工場・

- 監獄
- 4 交通網の整備と鉄道・橋梁
- 5 遊興空間の再編と文化
- 6 四力所・七墓と撰津役人村  
おわりに

まず、「序論 都市大阪のなか  
の差別」では、導入として上方落  
語の『らくだ』と『代書』を取り  
上げる。『らくだ』は近世の大阪  
千日墓所の情景を織り込んだ名作  
である。『らくだ』とは「のぼく」  
と呼ばれる貧民街に住んでいる  
「無頼漢」で、のっそりと行動す  
ることから、当時の庶民も実物や  
絵画で目にするがあつたらしく  
だからつけられた「馬五郎」のあ  
だ名であるが、その馬五郎が亡く  
なったために、葬式を出そうとす  
る兄弟分の抱腹絶倒の掛け合いが  
繰り広げられる演目である。『代  
書』は桂米朝の師でもある四代目  
桂米團治が演じた一九三〇年代末  
頃の代書家業の体験を元に構成さ  
れた作品で、難儀な客がひとしき  
り去ったあと、ひとりの朝鮮人が  
「渡航証明」を代書依頼にやって  
くる。そして……というストーリー  
で、当時の大阪ではリアリティを  
持つて演じられていたという。  
こうした演目について、吉村は

次のように指摘する。「上方落語の演目のいくつかは、近世（江戸時代）から近代（明治・大正・昭和時代）にかけて世相に織り込まれた被差別マイノリティの日常生活の一齣をおもしろくかつユーモラスに採り入れ、人びとの「笑い」を誘っていた。もとより、歴史的

身分あるいは多民族（多文化）といった視点からみた場合、それらの作品の含意は実に多様だが、ここで注目したいのは、落語という話芸の「王道」のなかで、さまざま

な身分集団・階層に属する人びとがリアリティをもって光を当てられている点である。つまり、共同体や地域社会の差別の現実から逃避したり、事実を隠蔽したりすることなく、話芸のなかで人間関係の深淵にある齟齬や矛盾を消化し、人の生活空間と隣合わせに存在する生身の人間を描いているところが重要だといえよう」（二〇〇一頁）そのうえで、吉村は「社会的排除／包摂」を軸に近代大阪案内をおこなうと述べている。

次に「続トピックス編」に移ろう。まず、「監獄署と博物館」では、堀川監獄（後の大阪府監獄署）、與左衛門町牢獄跡、西町奉行所跡を紹介し、監獄という施設と空間

を論じる。ここでは、感化教育の権威から、大阪府方面委員制度の生みの親となった小河滋次郎の事績が紹介されている。

「市民館と社会部」では、大阪市民館を紹介し、戦前期の日本で最先端の社会事業を誇った大阪社会部の人物を取り上げる。大阪市民館で先駆的なセトルメント事業を行った志賀志那人である。そして、大阪市の社会調査や社会事業の理論的枠組みを作り上げた山口正の二人である。

「避病院と済生会」では、大阪市立桃山病院、大阪赤十字病院、済生会本庄診療所、済生会大阪府病院、釜ヶ崎今宮診療所を紹介している。その中で大阪における衛生行政の系譜や済生会医療についてのべる。

「善隣館と愛染園」では、光徳寺善隣館、岡山孤児院附属愛染橋保育所と愛染橋夜学校、石井記念愛染園、愛染橋病院を紹介している。そのうえで、善隣館の創設者であり、画家の佐伯祐三の実兄である僧侶、佐伯祐正と、岡山孤児院の創設者石井十次について取り上げている。

「太鼓と皮革」から、舞台は西浜地域に移る。まず、西浜にある

橋や道が紹介され、太鼓製造業者太鼓屋又兵衛や牛骨業者仲覚兵衛の屋敷跡も示す。そして、近代の西浜の中心人物である新田帯革製造所の新田長次郎の事績を紹介し、新田の工場や私立有隣小学校、新田帯革製造所の一部であるレンガ壁を紹介する。

「公教育と私教育」では、西浜の教育の系譜を示す。栄小学校の創設と移転の経緯が丹念に追われ、栄第二小学校、有隣小学校も紹介する。ここでも西浜地域の教育に対する新田長次郎の貢献を語る。

「水平と融和」では、西浜水平社跡を紹介する。また、水平運動の指導者の一人であった栗須七郎と、融和運動の指導者であり、西浜地域の大名望家であった沼田嘉一郎の事績を対置し、地域における水平運動と融和運動の親和性を強調する。

「焼土と住宅」では、西浜地域の戦後の様子と部落解放運動の指導者たちの住宅獲得闘争を語る。

「仮小屋と生活館」から、舞台は新今宮、釜ヶ崎地域に移る。ここでは、中山太陽堂の創業者中山太一を紹介し、彼の会社の本店や工場、大阪市の更生施設「大阪市立馬淵生活館」を示す。また戦後

の釜ヶ崎地域の形成過程について詳細に論じる。

「紹介所と自彊館」では、大阪市立今宮職業紹介所、市営住宅の一つである今宮住宅、サントリー創業者鳥井信治郎が出資した四恩学園という仏教系私立学校、日雇労働者のための更生施設である大阪自彊館、救護医療施設である愛隣寮、三徳寮を紹介する。ここでは、大阪市の職業紹介事業と日雇労働者対策の系譜を示している。

「労働者と診療所」では、今宮市民館、大阪市立西成市民館、西成労働福祉センター、今宮無料診療所、キリスト教系セトルメントの聖心セトルメントを紹介し、釜ヶ崎地域における医療や福祉の系譜を説明している。その中で著名な釜ヶ崎の「赤ひげ先生」本田良寛の事績を語る。

「勤労と就学」では、大阪市内全域に及ぶ「貧民学校」の歴史を説明する。ここでは、戦前の私立徳風小学校、戦後の大阪市立萩之茶屋小学校、今宮中学校、そしてこれらの分校である「あいりん学園」、大阪市立あいりん小・中学校を紹介し、大阪における貧困児童に対する教育保障の歴史をひもといっている。

「補論 近代地図から読み解く都市大阪」では、大阪市の都市図からみる「社会的包摂／排除」の諸相を解説している。

### III

本書の優れた点は、第一に、これまで一般的にはほとんど知られてこなかった事実を、平易にのべたことにある。特に吉村の研究蓄積がある西浜と釜ヶ崎に関していえば、本書をこえるガイドブックはないだろう。本書を手に入れば、前著の『かくれスポット大阪』の読者も、本書によって吉村の著作にはじめて接するという読者も、あらたな視点で大阪フィールドワークに出かけることができる。

第二に、本書で語られるのは、日雇労働者、被差別部落民の社会的マイノリティの視点だということとである。そうした、抑圧されるものから見た都市のありかたや近代大阪の具体的な姿を、吉村はいきいきと動態的に描き出している。

第三に、キヤッチフレーズでもある「思想が織りなす歴史空間への誘い」という側面である。本書では、丹念に土地にねざした人物の紹介をおこなっており、地域と人物の歴史の具体的な結合のありようがのべられ、空間と思想の相

互関連性を示すことに成功している。

私事になるが、学生・院生時代、大阪市史編纂所に調査補助員として京都から西長堀の大阪市立中央図書館に通っていた。その帰り道、地図を片手に大阪市内の各地を、時間の許す限り歩いたものである。当時は、『新修大阪市史』の一〇巻に収められた地図のコピーとポケット地図を頼りに探訪するほかなかった。地図をみくらべ、道に迷いながら、また風俗産業の客引きを避け、時には警察の職務質問を受けつつ、大阪インナーリングのフィールドワークを行っていた日々が懐かしく思い出される。

この時に、もし吉村の手による著作や水内俊雄・加藤政洋・大城直樹著『モダン都市の系譜―地図から読み解く社会と空間―』（ナカニシヤ出版、二〇〇八年）があれば、私の大阪フィールドワークもずいぶん楽になっていただろうことは疑いない。本書は、私にとって待望の一書であり、同時に大阪の都市下層社会史の研究成果を社会へ還元するという意味でも大きな意味を持つだろう。

しかし、本書にも問題がないわけではない。

第一に、前著にくらべ、地図と本文の関連性がわかりにくいことである。本書ではトピックスが一第二章用意されているのに対し、地図はわずかに四枚である。前著が基本的に地域別で構成され、トピックスと地図の関連性を把握するところが容易であったため、本書では違いがより目立つ。たとえば、「焼土と住宅」では地図は一回も参照されていないし、一つのトピックスで地図を二枚参照しなければならぬ章も少なくない。

第二に、編集上の問題でもあるのだが、索引が人名索引しかないことである。事項索引や地名索引もつけてこそ、本書の特徴がいかにされるだろう。さらにいえば、ガイドブックとしては地図のキャプションに、本文の参照箇所のページを添えてほしかった。地図に本文へのリンクが示されていれば、フィールドワークの途中で地図をみながら、簡単に解説をよむことができる。前著を片手にフィールドワークをおこなったヘビィユーザーを自認する立場からも、ぜひともお願いしたい。

第三に、前著に引き続き、吉村も自覚しているだろうが、在日朝鮮人史研究などの民族問題研究や

ジェンダー史の観点が欠如しているのは問題であろう。確かに吉村自身にこれらの研究分野の成果はなく、自分が責任をもって描ける分野を確実に描くという禁欲的な姿勢には共感もする。だが、本書は研究書ではない。一般の人々に研究成果を還元する近代大阪のガイドブックとしては、在阪朝鮮人、沖繩人、中国人、台湾人史研究やジェンダー史の良質な研究成果に学び、一般読者に現在の最先端の研究状況にもとづいた全体像を平易に提示することも必要ではないか。近代大阪に関するこれらの研究分野の研究成果は重厚かつ多数ある。それらに学びつつ、大阪人権博物館学芸員として、長年市民に接してきた吉村だからこそできる平易な叙述の仕方があったのではないだろうか。次の著作ではぜひ、自分の専門分野にこだわらず、近代大阪の都市下層社会像の提示をお願いしたい。

ともあれ、本書は近代大阪に関する良質なガイドブックのひとつである。私は多くの人々が本書を手に入れた視点から都市探訪にでかけることを確信している。

（解放出版社、二〇一五年、一三〇〇円）

「京都部落問題研究資料センター通信」総目次

(二〇〇〇年七月～二〇一五年四月)

- Memento 第1号**(二〇〇〇年七月)  
資料センター所長就任にあたって―第3期の部落解放運動と研究活動―  
灘本 昌久
- 最近こんな本を読みました① 金城一紀『GO』  
**Memento 第2号**(二〇〇〇年一〇月)  
部落解放運動と研究はどのような関係にあるべきか  
前川 修
- 最近こんな映画を観ました① 関本郁夫監督『残侠』  
**Memento 第3号**(二〇〇一年一月)  
学生諸君! 部落問題で卒論を書こう!  
灘本 昌久
- 最近こんな映画を観ました② 松江哲明監督『あんによんキムチ』と李相日監督『青〜change〜』  
**Memento 第4号**(二〇〇一年四月)  
追悼 奈良本辰也先生  
師岡 佑行
- 部落史の中の「虚構」と「神話」  
**Memento 第5号**(二〇〇一年七月)  
「部落は顔でわかる」!? 同和・人権教育の総合学習は啓蒙主義を超えられるか  
灘本 昌久
- 教科書(2002年度版)における部落問題記述について  
外川 正明
- 映画紹介 JSA(パク・チャヌク監督/韓国/2000年)  
金 東秀
- Memento 第6号**(二〇〇一年一〇月)  
教育実態調査報告書を読む  
伊藤 悦子
- 『京都の部落史』史料を読む 第1回 辻芝居について  
中島智枝子
- 本の紹介 横井清『中世日本文化史論考』によせて―中世民衆精神史の歩み―  
灘本 昌久
- Memento 第7号**(二〇〇二年一月)  
特別措置法後の部落解放運動―アメリカ黒人運動の苦境に学ぶ―  
灘本 昌久
- 追悼 井上清先生  
師岡 佑行
- Memento 第8号**(二〇〇二年四月)
- 知りたいあなたのための京都の部落史(超コンパクト版) その1  
―膨大な史料と研究を前にして途方に暮れないために― 灘本 昌久  
『京都の部落史』史料を読む 第2回 『明治新撰西京繁昌記』と浮かれ節  
中島智枝子
- Memento 第9号**(二〇〇二年七月)  
知りたいあなたのための京都の部落史(超コンパクト版) その2  
―膨大な史料と研究を前にして途方に暮れないために― 灘本 昌久  
『京都の部落史』史料を読む 第3回 窮民授産所と興行等への課税  
中島智枝子
- Memento 第10号**(二〇〇二年一〇月)  
部落史研究の現在と学校教科書  
灘本 昌久
- 『京都の部落史』史料を読む 第4回 芸能を楽しむ  
中島智枝子
- Memento 第11号**(二〇〇三年一月)  
知りたいあなたのための京都の部落史(超コンパクト版) その3  
―膨大な史料と研究を前にして途方に暮れないために― 灘本 昌久  
人権教育における参加型学習の意義と限界  
伊藤 悦子
- Memento 第12号**(二〇〇三年四月)  
部落解放に反天皇制は無用  
灘本 昌久
- Memento 第13号**(二〇〇三年七月)  
反天皇制は部落解放の核心である―灘本昌久「部落解放に反天皇制は無用」を批判する―  
師岡 佑行
- Memento 第14号**(二〇〇三年一〇月)  
部落史連続講座―『京都の部落史』にみる人びとの仕事と暮らし―多数  
灘本 昌久
- ご参加ください!  
『京都の部落史』史料を読む 第5回 解放令とゴミ問題  
中島智枝子
- Memento 第15号**(二〇〇四年一月)  
書籍紹介 『改訂 箕面市史 部落史本文編』(一九九九年三月発行)を読んで  
伊藤 悦子
- 報告 部落史連続講座―『京都の部落史』にみる人びとの仕事と暮らし―  
第1回 「古代の被差別民とその周辺」講師 井上満郎さん  
中島智枝子
- Memento 第16号**(二〇〇四年九月)  
お知らせ  
灘本 昌久

- 第1号(二〇〇五年一〇月)  
最近の京都府・京都市の結婚差別統計をよむ  
秋定 嘉和
- 第2号(二〇〇六年一月)  
報告 部落史連続講座 近代京都の被差別部落Ⅱ 第一回・第二回  
本を紹介 三上敦史著『近代日本の夜間中学』  
金森 襄作
- 第3号(二〇〇六年四月)  
報告 部落史連続講座 近代京都の被差別部落Ⅱ 第三回・第四回  
本を紹介 鈴木良著『水平社創立の研究』  
高野 昭雄
- 第4号(二〇〇六年七月)  
師岡佑行さんの死を悼む  
秋定 嘉和  
師岡佑行さんの略歴と主な業績  
本を紹介 フィリップ・ポンス著『裏社会の日本史』  
河村 義長
- 第5号(二〇〇六年一〇月)  
報告 部落史連続講座 京都の被差別部落と教育Ⅰ 第一回〜第四回  
本を紹介 秋定嘉和著『近代日本の水平運動と融和運動』  
吉田栄治郎
- 第6号(二〇〇七年一月)  
報告 部落史連続講座 京都の被差別部落と教育Ⅱ 第一回・第二回  
京都府・市における教育の機会均等への施策について  
白石 正明  
—第三次小学校令以降を中心に—  
白石 正明
- 第7号(二〇〇七年四月)  
報告 部落史連続講座 京都の被差別部落と教育Ⅱ 第三回  
京都府・市における教育の機会均等への施策について(2)  
白石 正明  
—第三次小学校令以降を中心に—  
本を紹介 藤野豊著『忘れられた地域史を歩く—近現代日本における差別の諸相』  
杉本 弘幸
- 第8号(二〇〇七年七月)  
報告 部落史連続講座 京都の被差別部落と仕事 第一回・第二回  
京都府・市における教育の機会均等への施策について(3)  
白石 正明  
—第三次小学校令以降を中心に—  
本を紹介 浅尾篤哉編『三浦参玄洞論説集』  
廣岡 浄進
- 第9号(二〇〇七年一〇月)  
報告 部落史連続講座 京都の被差別部落と仕事 第三回  
わが回想—差別とは—  
本を紹介 吉村和真・田中聡・表智之共著『差別と向き合うマンガたち』  
藤岡 晴美  
本を紹介 鈴木道彦著『越境の時 一九六〇年代と在日』  
杉本 弘幸  
渡辺 毅
- 第10号(二〇〇八年一月)  
報告 部落史連続講座 京都の被差別部落と仕事Ⅱ 第一回・第二回  
サントリ—美術館蔵『日吉山王祇園祭礼凶屏風』にみえる犬神人について  
河内 将芳  
京都府・市における教育の機会均等への施策について(4)  
—第三次小学校令以降を中心に—  
白石 正明
- 第11号(二〇〇八年四月)  
報告 部落史出張講座 地元で学ぶ地元の歴史  
本を紹介 『神奈川の部落史』  
杉本 弘幸  
京都府・市における教育の機会均等への施策について(5)  
—第三次小学校令以降を中心に—  
白石 正明
- 第12号(二〇〇八年七月)  
報告 部落史出張講座 地元で学ぶ地元の歴史 第一回・第二回  
支配されてなお横溢する性の可能性—今西一著『遊女の社会史』を読んで  
栄井香代子
- 第13号(二〇〇八年一〇月)  
報告 部落史連続講座 第三回  
本を紹介 福原宏幸編著『社会的排除／包摂と社会政策』  
杉本 弘幸  
本を紹介 朝治武著『アジア・太平洋戦争と全国水平社』  
手島 一雄
- 第14号(二〇〇九年一月)  
報告 部落史連続講座Ⅱ 第一回〜第三回  
本を紹介 竹本修三・駒込武編『京都大学講義「偏見・差別・人権」を問  
い直す』  
杉本 弘幸  
『被差別部落の大学卒業者の進路と結婚』を読んで 運命論を越えと  
くみ—選択する主体となるために—  
土肥いつき  
西陣織と朝鮮人  
金森 襄作
- 第15号(二〇〇九年四月)  
本を紹介 栗原美和子著『太郎が恋をする頃までには…』  
伊藤 悦子

- 本の紹介 水内俊雄・加藤政洋・大城直樹著『モダン都市の系譜 地図から読み解く社会と空間』 杉本 弘幸  
 本の紹介 トニー・ロビンソン&デイヴィッド・ウイルコック著『図説「最悪」の仕事の歴史』 田中 啓輔  
 本の紹介 松沢哲成著『天皇帝国の軌跡―「お上」崇拝・拝外・排外の近代日本史』 吉村 智博
- 第16号**(二〇〇九年七月)  
 報告 部落史出張講座 地元で学ぶ地元の歴史 in 千本 第一回〜第三回  
 「ふつうの人」のための「近現代部落史」のよみかた・しらべかた(一) 杉本 弘幸  
 レヴェラーズと水平社 関口 寛
- 第17号**(二〇〇九年一〇月)  
 本の紹介 黒川みどり編著『部落史研究からの発信』第2巻 近代編 秋定 嘉和  
 「ふつうの人」のための「近現代部落史」のよみかた・しらべかた(二) 杉本 弘幸  
 本の紹介 高野昭雄著『近代都市の形成と在日朝鮮人』 金森 襄作  
 部落史研究の見取図は描けたか? 寺木伸明・中尾健次編著『部落史研究からの発信』第1巻 前近代編を読んで 奥本 武裕  
 本の紹介 山本尚友著『史料で読む部落史』 吉田栄治郎
- 第18号**(二〇一〇年一月)  
 報告 部落史連続講座Ⅱ 第一回〜第三回 吉村 智博  
 本の紹介 『子どもの貧困白書』 第3巻 現 阿南 重幸  
 本の紹介 友永健三・渡辺俊雄編著『部落史研究からの発信』 杉本 弘幸  
 代編 「ふつうの人」のための「近現代部落史」のよみかた・しらべかた(三)
- 第19号**(二〇一〇年四月)  
 本の紹介 山路興造著『京都 芸能と民俗の文化史』 村上 紀夫  
 本の紹介 上原善広著『日本の路地を旅する』 竹森健二郎  
 史料紹介 『京都市出新聞』連載の「山家」記事について 中村 久子
- 第20号**(二〇一〇年七月)  
 報告 部落史出張講座 地元で学ぶ地元の歴史 in 崇仁 第一回〜第四回  
 本の紹介 竹沢尚一郎著『社会とは何か システムからプロセスへ』 田中 和男  
 現代史が持つ意義と重み―希望の家創立50周年と東九条― 山本 崇記
- 第21号**(二〇一〇年一〇月)  
 三浦参玄洞の水平社記事について―「中外日報」を中心に―(一) 秋定 嘉和  
 映画の紹介 『キャタピラー』(若松孝二監督、二〇一〇年) 渡辺 毅
- 第22号**(二〇一一年一月)  
 報告 部落史連続講座Ⅱ 第一回・第二回  
 三浦参玄洞の水平社記事について―「中外日報」を中心に―(二) 秋定 嘉和  
 本の紹介 「ごくふつうの人々」によるアーカイブズのために 『教会アーカイブズ入門―記録の保存と教会史編纂の手引き―』 杉本 弘幸  
 本の紹介 海外での部落史研究 イアン・ニアリー著『部落問題と近代日本』 田中 和男
- 第23号**(二〇一一年四月)  
 三浦参玄洞の水平社記事について―「中外日報」を中心に―(三) 秋定 嘉和  
 本の紹介 『神戸ブント 藤本敏夫のうた プロレタリア文学万少年がたどった軌跡』 高木 伸夫  
 本の紹介 石井光太著『ルポ 餓死現場で生きる』 渡辺 毅
- 第24号**(二〇一一年七月)  
 報告 部落史出張講座 地元で学ぶ地元の歴史 in 田中 第一回〜第三回  
 本の紹介 黒川みどり著『近代部落史 明治から現代まで』 井岡 康時  
 本の紹介 筆坂秀世・宮崎学著『日本共産党 vs 部落解放同盟』 笠松 明広
- 第25号**(二〇一一年一〇月)  
 本の紹介 大東仁著『大逆の僧 高木顕明の真実 真宗僧侶と大逆事件』 駒井 忠之  
 本の紹介 シェルビー・ステイール著『白い罪 公民権運動はなぜ敗北したか』 住田 一郎



- 本の紹介 黒川みどり著『描かれた被差別部落 映画の中の自画像と他者像』  
第26号(二〇一二年一月) 石元 清英
- 報告 部落史連続講座Ⅱ 第一回〜第三回  
本の紹介 三山番著『ホームレス歌人のいた冬』 渡辺 毅  
本の紹介 片岡優子著『原胤昭の研究 生涯と事業』 田中 和男  
第27号(二〇一二年四月)
- 本の紹介 秦重雄著『挑発ある文学史―誤読され続ける部落／ハンセン病文学―』 前川 修  
史料紹介 伊東茂光の「北海道・樺太」視察記 白石 正明  
第28号(二〇一二年七月)
- 報告 部落史出張講座 地元で学ぶ地元の歴史 in 西三条 第一回・第二回  
在野の融和運動家・植村省馬(一) 吉田 文茂  
本の紹介 野町均著『永井荷風と部落問題』 田中 勝子  
第29号(二〇一二年一〇月)
- 在野の融和運動家・植村省馬(二) 吉田 文茂  
本の紹介 吉村智博著『近代大阪の部落と寄せ場―都市の周縁社会史』 廣岡 浄進  
第30号(二〇一三年一月)
- 報告 部落史連続講座〜全国水平社をめぐる〜 第一回〜第四回  
本の紹介 八箇亮仁著『病む社会・国家と被差別部落』 田中 和男  
在野の融和運動家・植村省馬(三) 吉田 文茂  
第31号(二〇一三年四月)
- 本の紹介 朝治武著『差別と反逆 平野小剣の生涯』 ひろたまさき  
本の紹介 山本栄子著『歩 識字を求め、部落差別と闘いつづける』 湯浅 孝子  
第32号(二〇一三年七月)
- 報告 部落史連続講座 第一回〜第三回  
映画の紹介 「くちづけ」(監督 堤幸彦、脚本 宅間孝行) 渡辺 毅  
第33号(二〇一三年一〇月)
- 戦後マイノリティ研究と西成情報アーカイブ 吉村 智博
- 清水坂の「坂の者」と葬送・寺社  
第34号(二〇一四年一月) 村上 紀夫
- 報告 部落史連続講座Ⅱ 第一回〜第三回  
本の紹介 太田心海著『自叙で綴る梅原眞隆の生涯』 神戸 修  
本の紹介 畑中敏之・朝治武・内田龍史編著『差別とアイデンティティ』 井岡 康時  
―関係の大海をどう泳ぐか―  
第35号(二〇一四年四月)
- 一九五〇年代のサークル詩運動と部落民の表現―酒井真右と部落解放詩集『地ぞこからのうたごえ』― 黒川 伊織  
本の紹介 吉村智博著『かくれスポット大阪』 今西 一  
紹介 菖蒲草とはどういう革なのか―竹中友里代著『八幡菖蒲草と石清水のびしよじ』 伊東 宗裕  
第36号(二〇一四年七月)
- 報告 部落史連続講座 第一回〜第三回  
本の紹介 『若山要助日記』(京都市歴史資料館刊) 伊東 宗裕  
本の紹介 加藤哲郎著『日本の社会主義 原爆反対・原発推進の論理』 福家 崇洋  
第37号(二〇一四年一〇月)
- 本の紹介 八木聖弥著『近代京都の施薬院』 田中 和男  
本の紹介 小林丈広編著『京都における歴史学の誕生―日本史研究の創造者たち―』 田良島 哲  
第38号(二〇一五年一月)
- 報告 部落史連続講座Ⅱ 第一回〜第三回  
本の紹介 内田龍史編著『部落問題と向きあう若者たち』 矢野 亮  
本の紹介 黒川創著『京都』 渡辺 毅  
第39号(二〇一五年四月)
- 本の紹介 杉本弘幸著『近代日本の都市社会政策とマイノリティ―歴史都市の社会史―』 田中 和男  
本の紹介 下坂守著『中世寺院社会と民衆 衆徒と馬借・神人・河原者』 矢野治世美

私の村の解放運動（後編） 2014年田植えを終えたころ  
～地蔵盆を一緒にしませんか～ 林光宏

韓国人権歴史スタディツアーの報告 4 日本と韓国の友好のために 朝治武

被差別部落の歴史 近現代編 4 黒川みどり

**ヒューマンライツ 326**（部落解放・人権研究所刊，2015.5）：540円

特集 出生前診断を考える

明日をかえる法人—新たな人権への取り組み 11 農業を通じた社会的企業—株式会社あかねの取り組み 竹内哲也

各地の人権研究所の取り組み 7 「真実が知りたい」が出発点 八幡浜部落史研究会 水本正人

被差別部落の歴史 近現代編 5 第5章 米騒動／人種平等 黒川みどり

**ヒューマンライツ 327**（部落解放・人権研究所刊，2015.6）：500円

特集 女性の人権—女性差別撤廃条約批准30年をふまえて

差別禁止法を求めます—差別事例の調査から見えてくるもの 1 セクシュアル・マイノリティが直面していること 性的マイノリティ調査チーム

被差別部落の歴史 近現代編 6 自らの力で解放を 黒川みどり

**ひょうご部落解放 155**（ひょうご部落解放・人権研究所刊，2014.12）：700円

特集 震災から20年、被災地からの発信

仕事のにおい まちのにおい 2 在日コリアンの人々が支えた靴づくり、靴のまち 社納葉子

皮革の社会史 1 ユダヤ人と皮革業 西村祐子

人権歴史マップセミナー報告

「賀川ハル」 三原容子／「有馬温泉の「癩」者と夙

吉田栄治郎

なかのもん食がたり 6 北出精肉店の煮ごり

**部落解放 709**（解放出版社刊，2015.5）：600円

特集 私の部落解放運動 2

地域の人を守る人間になりたい 田村明紗／いっぱい勉強していきたい 小西愛里紗／これからも信じて頼れる解放運動に 小西美智子，小西貢／子どもたちに教育をつけさせたい 小西ナツ子

本の紹介 原口穎雄著『被差別部落の歴史と生活文化 九州部落史研究の先駆者・原口穎雄著作集成』 塚本博和 皮革産業の新たな道 下 姫路市高木地区の挑戦 鎌田慧 警察史のなかの追捕と糾弾権 6 第6章 検断所、侍所、奉行所と明治維新 川元祥一

回顧 教科書無償運動 6 長浜での教育長との大衆交渉 村越良子，吉田文茂

**部落解放 710**（解放出版社刊，2015.6）：600円

特集 『部落地名総鑑』事件を問う

情況への異論・反論・抗論 1 「沖縄問題」を考える 黒古一夫

本の紹介 好井裕明著『差別の現在—ヘイトスピーチのある日常から考える』 河村義人

回顧 教科書無償運動 7 高知市教委の雲隠れ 村越良子，吉田文茂

**部落解放 711**（解放出版社刊，2015.7）：600円

特集 多様な性を生きる人々

ありのままを生きるということ 土肥いつき／じぶんらしくいっばずゆっくりあるこう 自分の性は自分で決める 田中一步／変化する性的指向を生きる 資山祐理江／自分を取り戻す営み ゲイとして生きるまでの僕の半生 森雅寛／LGBTが子育てをする未来に向けて 藤めぐみ

回顧 教科書無償運動 8 市長交渉と市教委の総辞職 村越良子，吉田文茂

**部落問題研究 211**（部落問題研究所刊，2015.4）：1,058円

特集 近世～近代遊廓社会史研究の到達点と課題—『シリーズ遊廓社会』1・2巻を素材に考える—

近世遊廓社会史の方法をめぐって 松井洋子／近世大坂における茶屋の考察—堀江地域を素材に— 吉元加奈美／近代遊廓社会史研究の課題と展望—『シリーズ遊廓社会2』を素材に考える— 佐賀朝

明治初期東京における貧民の救済と統制 ジョン・ポーター

**本願寺史料研究所報 49号**（本願寺史料研究所刊，2015.6）

近世の本願寺、その日その日 編集子

**リベラシオン 158**（福岡県人権研究所刊，2015.5）：1,000円

特集1 「福岡部落史研究会設立40周年記念のつどい」をふりかえる

特集2 若者の貧困と『承認』

図書紹介 原口穎雄著『被差別部落の歴史と生活文化—九州部落史研究の先駆者・原口穎雄著作集成』 関儀久 資料紹介 生活の柄 73—「近世民衆史の泉」改め— 竹森健二郎

民衆史こぼれ話 片隅に生きた人たち 22 西日本新聞が報じた—「解体新書」より87年古い、秘伝の解剖書 石瀧豊美

**和歌山研究所通信 49**（和歌山人権研究所刊，2015.6）

同和对策審議会・答申50年を考える 池田清郎

外島保養院の記憶をのこすために 矢野治世美

ダイバーシティ（多様性）をふまえて— 安田三江子

**人権と部落問題 871**（部落問題研究所刊，2015.5）：600円

特集 憲法とくらし  
追悼

追悼 鈴木良さん 成澤榮壽／お別れの言葉 佐々木隆爾／北極星（巨星） 随つ—鈴木良の生き方— 東上高志  
文芸の散歩道 『石狩川』の著者 本庄陸男の『破戒』論 秦重雄

**人権と部落問題 872**（部落問題研究所刊，2015.6）：600円

特集 労働者の人権

本棚 岩井忠熊著『十五年戦争期の京大学生運動 戦争とファシズムに抵抗した青春』 高木博志  
文芸の散歩道 近世文芸に著された賤民たち—『一話一言』より— 小原亨

**季刊人権問題 379**（兵庫人権問題研究所刊，2015.4）：700円

八鹿高校事件の真実を改めて世に問う 17 “八鹿高校事件の現代的意義”を正面にかかげた丹有研究集会 村上保  
**人権問題研究 35**（大阪市立大学人権問題研究会刊，2014.12）：1,500円

「部落」における「人」と「土地」について—「部落」とはなにか?— 上杉聰

1950年代大阪における住宅行政と都市部落の変容 吉村智博

都市部落における住宅要求闘争と入居選考プロセス 野口道彦

世間という牢獄—結婚差別の構造— 青木秀男

被差別民社会論 序説 のびしょうじ

「慰安婦」問題とポストコロニアル状況—「女性のためのアジア平和国民基金」をめぐる論争を中心に— 鄭柚鎮

2・4ゼネストと総合労働布令—沖縄保守勢力・全軍労働の動向を中心に— 成田千尋

後期中等教育における学習権保障の場としての通信制高校—社会的条件不利とともに学ぶ生徒を支える私学4校の取り組み— 阿久澤麻理子

「知的障害」概念の脱構築—筆談援助法（FC）利用の社会的障壁と専門科学— 要田洋江

**振興会通信 121**（同和教育振興会刊，2015.3）

同朋運動史の窓 27 左右田昌幸

**信州農村開発史研究所報 131**（信州農村開発史研究所刊，2015.3）

水稻つくりの知恵 佐藤多喜雄

秩父領における砥石の販売 斎藤洋一

**水平社博物館研究紀要 17**（水平社博物館刊，2015.3）：

1,000円

全国水平社創立前後の商業新聞地方版・地方紙の部落問題報道について 米田哲夫

「『全国水平社創立宣言』と関係資料」の世界記憶遺産登録申請をめざして 守安敏司

**地域と人権 1149**（全国地域人権運動総連合刊，2015.6）：148円

歴史の記憶と継承—戦後70年の「部落問題」— 尾川昌法

**月刊地域と人権 373**（全国地域人権運動総連合刊，2015.5）

身分制・部落問題の教科書記述と学習のすすめ方 1 小牧薫

書架 北原泰作文書について 西尾泰広

**月刊地域と人権 374**（全国地域人権運動総連合刊，2015.6）

身分制・部落問題の教科書記述と学習のすすめ方 2 小牧薫

**地域と人権京都 693号**（京都地域人権運動連合会刊，2015.5.15）：150円

「同和奨学金不当返還」裁判の不当判決を問う

**であい 637**（全国人権教育研究協議会刊，2015.4）：160円

人権文化を拓く 209 中山英一さんの遺志を受け継いで 太田恭治

**であい 638**（全国人権教育研究協議会刊，2015.5）：160円

人権のまちをゆく 70 遠くとも一度は詣れ善光寺

人権文化を拓く 210 戦後70年～アジアから問われる「理想」と「信頼」 荒巻裕

**奈良人権部落解放研究所紀要 33号**（奈良人権部落解放研究所刊，2015.3）：1,500円

水平社の創立とアイヌの詩人たち—関係資料を世界記憶遺産に！— 金井英樹

第二次大戦後の奈良県における部落問題関係新聞記事リストと解説（承前） 井岡康時

近世大和の惣道場と看坊—浄土真宗寺院の住僧はいかにして供給されたか— 奥本武裕

書評 内田龍史編著『部落問題と向きあう若者たち』 廣岡浄進

エコでヒューマンな自立できる村づくりをめざして～水車プロジェクトで地域を元気に～ 岸田かおる

「柳生さくら祭」が教えてくれること 近藤夏織子

奈良人権部落解放研究所 研究紀要総目次

**ヒューマンライツ 325**（部落解放・人権研究所刊，2015.4）：500円

特集 第29回人権啓発研究集会

兵庫県における日本語支援が必要な子どもたちの進路  
辻本久夫

第二回関学レインボーウィーク「もっとカラフルな関学  
に！」を振り返って 阿部潔

難民問題への本学の取り組み—2013年度～2014年度—  
舟木譲

「国際人権に関する研究」指定研究活動報告 望月康恵  
在日外国人学生の権利のために大学に何ができるか  
「関西学院大学人権教育」の基本方針から考える 川村  
暁雄

**関西大学人権問題研究室紀要 69**（関西大学人権問題  
研究室刊, 2015. 3）

近世被差別身分の裁判例について—『大坂都督所務類纂』  
による— 藤原有和

在日ブラジル人家族の進路選択と教育戦略—日本で高等  
教育を終了した日系ブラジル人青年とその母親のライフ  
ヒストリーから— 山ノ内裕子

戦後、「天声人語」にみる歴史認識 下 宮前千雅子

**京都市歴史資料館紀要 25号**（京都市歴史資料館刊, 2  
015. 3）

近世における下桂村の渡船運営について 松中博  
館蔵新資料の紹介

重要文化財「岩倉具視関係資料」目録（1018点）／京都市  
指定文化財「岩倉具視関係資料」目録（109点）

**グローブ 81**（世界人権問題研究センター刊, 2015. 4）

猫皮なめし業の窮状と三味線の将来 廣岡浄進

**藝能史研究 209**（藝能史研究会刊, 2015. 4）：1, 800円  
中世前期における禁裏駕輿丁の存在形態 西山剛

**国際人権ひろば 121**（アジア・太平洋人権情報センター  
刊, 2015. 5）：350円

特集 女性差別撤廃条約と日本のマイノリティ女性

**こるむ 最終号**（在特会らによる朝鮮学校に対する襲撃  
事件裁判を支援する会刊, 2015. 4）

朝鮮学校襲撃事件の判決をうけて 上瀧浩子

裁判闘争を通して得たものとこれからの課題 柴松枝

こるむがあって良かった 朴貞任

子どもたちに伝えたい「ウリ」について 金志成

「こるむ」解散のご挨拶 山本崇記

**在日朝鮮人史研究 44**（緑蔭書房刊, 2014. 10）：2, 40  
0円

1930年代以降の在阪朝鮮人教育—内鮮「融和」教育から  
「皇民化」教育へ— 塚崎昌之

経済史的にみた朝鮮人の渡航について—なぜ朝鮮人は来  
日したのか？— 李光宰

在日朝鮮人の日本人妻 尹健次

在日コリアンのチェサの継承について—チェサの書籍や  
ビデオをもとに 李裕淑

在日コリアン高齢者一世の生活史—特別養護老人ホーム  
「故郷の家・京都」におけるインタビューから— 西田  
知未

故許壹昌先生を偲ぶ 三田登美子

**佐賀部落解放研究所紀要 32**（佐賀部落解放研究所刊,  
2015. 3）

「ハシシタ」問題を検証する—部落の地名、差別、そし  
てアイデンティティについて— 廣岡浄進

第33回九州地区部落解放史研究集会報告

近世・近代移行期における被差別部落の動向と地域社会  
—福岡を中心に— 竹森健二郎／近世の被差別民、その  
多様なありようを見る—肥前国佐賀藩領・唐津藩領・対  
馬藩田代領を例として— 中村久子

紹介 黒川伊織『帝国に抗する社会運動 第一次日本共産  
党の思想と運動』 福家崇洋

**しこく部落史 17**（四国部落史研究協議会刊, 2015. 5）：  
500円

シンポジウム「幕末から明治へかけての被差別部落の様  
相」

幕末・維新期における名東懸の操り芝居や雑芸人の様相  
辻本一英／「解放令」と土佐 宇賀平／小学校開設に関  
して 水本正人／近代移行期における被賤視民（讃岐の  
場合） 山下隆章

丸亀市の啓発活動を通して—四国部落史研究協議会の蓄  
積を教育・啓発に— 濱近仁史

膏取一揆について—「解放令」と土佐— 宇賀平

「解放令」反対騒擾について—「解放令」と土佐— 宇  
賀平

「阿波木偶箱まわし」伝承推進・調査研究事業の成果に  
ついて 「阿波木偶箱まわし」伝承推進実行委員会事務  
局

戦前・戦中・戦後と部落差別をなくするために懸命に取り  
組んだ人々—西宇和郡・八幡浜市・大洲市より— 水  
本正人

**人権教育研究 23**（花園大学人権教育研究センター刊,  
2015. 3）

八木晃介教授インタビュー

津崎哲郎教授インタビュー

「国権 versus 人権」の現況をかんがえる 八木晃介  
最大証拠は捏造されたのか—野田事件再審請求が意味す  
るもの 小林敏昭

ある傷害致死等被告事件の情状鑑定 脇中洋

原発をめぐるユートス 日本とドイツ 島崎義孝

一茶が描いた被差別民 2 太田恭治

闘病記に見るALS患者の抱える思い 2—より良きサポ  
ートをめざして— 西岡秀爾

女性の登用をすすめるにあたって大切なこと—ふたつの

- 音谷健郎  
今週の1冊 『#鶴橋安寧—アンチ・ヘイト・クロニクル』  
李信惠著  
**解放新聞 2716号** (解放新聞社刊, 2015. 5. 25) : 90円  
ぶらくを読む 95 近世部落史研究の到達点と展望を考  
える 湧水野亮輔  
**解放新聞 2719号** (解放新聞社刊, 2015. 6. 15) : 90円  
ノンフィクションからの警鐘 8 『永続敗戦論』 白井聡  
著 音谷健郎  
今週の1冊 黒川創著『京都』  
**解放新聞改進黨 463号** (部落解放同盟改進黨支部刊, 20  
15. 4. 20)  
『京都市同和教育方針』50年を迎えて 8  
**解放新聞改進黨 464号** (部落解放同盟改進黨支部刊, 20  
15. 5. 20)  
『京都市同和教育方針』50年を迎えて 9  
**解放新聞改進黨 465号** (部落解放同盟改進黨支部刊, 20  
15. 6. 20)  
『京都市同和教育方針』50年を迎えて 10  
**解放新聞京都版 1016号** (解放新聞社京都支局刊, 201  
5. 4. 10) : 210円  
2015年度一般運動方針 (第1次案)  
**解放新聞京都版 1020号** (解放新聞社京都支局刊, 201  
5. 6. 1) : 70円  
本の紹介 『目の見えない人は世界をどう見ているのか』  
(伊藤亜紗著)  
**解放新聞広島県版 2167号** (解放新聞社広島支局刊, 2  
015. 4. 5)  
昭和史の中のある半生 27 小森龍邦  
**解放新聞広島県版 2168号** (解放新聞社広島支局刊, 2  
015. 4. 15)  
昭和史の中のある半生 28 小森龍邦  
**解放新聞広島県版 2169号** (解放新聞社広島支局刊, 2  
015. 4. 25)  
昭和史の中のある半生 29 小森龍邦  
**解放新聞広島県版 2170号** (解放新聞社広島支局刊, 2  
015. 5. 5)  
昭和史の中のある半生 30 小森龍邦  
**解放新聞広島県版 2171号** (解放新聞社広島支局刊, 2  
015. 5. 15)  
昭和史の中のある半生 31 小森龍邦  
**解放新聞広島県版 2172号** (解放新聞社広島支局刊, 2  
015. 5. 25)  
昭和史の中のある半生 32 小森龍邦  
**解放新聞広島県版 2173号** (解放新聞社広島支局刊, 2  
015. 6. 5)  
昭和史の中のある半生 33 小森龍邦
- 解放新聞広島県版 2174号** (解放新聞社広島支局刊, 2  
015. 6. 15)  
昭和史の中のある半生 34 小森龍邦  
**語る・かたる・トーク 242** (横浜国際人権センター刊,  
2015. 4) : 500円  
シリーズ「解放教育」継承への扉 39 親が毅然とした姿  
を示さないと 1—保護者会の始まり 外川正明  
「いじめ」に思う 繰り返さないために母娘で語ったこ  
と 1 坂田るり&かおり  
**語る・かたる・トーク 243** (横浜国際人権センター刊,  
2015. 5) : 500円  
シリーズ「解放教育」継承への扉 40 親が毅然とした姿  
を示さないと 2—保護者の自主性と学校の姿勢 外川正  
明  
「いじめ」に思う 繰り返さないために母娘で語ったこ  
と 2 坂田かおり  
**語る・かたる・トーク 244** (横浜国際人権センター刊,  
2015. 6) : 500円  
シリーズ「解放教育」継承への扉 41 親が毅然とした姿  
を示さないと 3—同和問題と子育てを語る会 外川正明  
「いじめ」に思う 本音で語れない「道徳の時間」になっ  
てしまっは おのえさやか  
**カトリック部落差別人権委員会ニュース 157** (日本  
カトリック部落差別人権委員会刊, 2015. 5)  
いのちをいただいて人は生きている 北出新司  
映画『ある精肉店のはなし』のむらの歴史から 井上秀  
和  
**かわとはきもの 171** (東京都立皮革技術センター台東  
支部刊, 2015. 3)  
靴の歴史散歩 116 稲川實  
皮革関連統計資料  
**KG人権ブックレット 21** (関西学院大学人権教育研究  
室刊, 2015. 3)  
2014年度大学主催春季人権問題講演会  
平等への闘い: LGBT権利の過去と現在 パトリック・ジョ  
セフ・リネハン/LGBTと人権 南和行  
2014年度大学主催秋季人権問題講演会 ヘイトスピーチ  
と差別禁止法—世界に問われた日本のヘイト・スピーチ  
— 丹羽雅雄  
**関西学院大学人権研究 19** (関西学院大学人権教育研  
究室刊, 2015. 3)  
人権研究のための研究方法論—トランスフォーマティブ  
な研究パラダイムに基づくCBPR— 武田丈  
宗教的人権の現在—その歴史的経緯と事例— 加納和寛  
人権研究におけるボランティア行動の意義と評価—学生  
YMCAによるハンセン病療養所訪問プログラムをもとに—  
岩坂二規

# 収集逐次刊行物目次 (2015年4月～6月受入)

～各逐次刊行物の目次の中から部落問題関係のものを中心にピックアップしました～

**明日を拓く 106 解放研究 28号** (東日本部落解放研究所刊, 2014. 11) : 2,000円

講演 部落の文化試論 太田恭治

近世日光領とえた頭惣右衛門 竹末広美

『弁之助日記』から見た鼻緒騒動 間々田和夫

「弁之助日記」に見る差別裁判の実態 松浦利貞

「変死人三検使」を読む <史料紹介> 中丸村文書より  
瀬尾健

**明日を拓く 107** (東日本部落解放研究所刊, 2014. 12) : 1,080円

特集 人権教育

座談会 フランスの移民教育と日本の人権教育—フランスの移民の子どもたちと日本の外国につながる子どもたち— 池田賢市, 木川恭, 角田仁, 吉田浩司, 松浦利貞  
／第5回東日本同和教育実践交流会の報告 東日本部落解放研究所教育部会／東日本部落解放研究所第28回研究・交流集会教育分科会報告 東日本部落解放研究所教育部会／生徒たちが教えてくれたこと～問われ続けている自分～ 小黒秀昭／A町を取り上げた人権集会 吉田浩司  
大磯の「さざれ石」と白山宮の守り石 久保田宏

**IMADR通信 182** (反差別国際運動日本委員会刊, 2015. 5) : 500円

特集 マイノリティの声—ストップレイシズム! ストップヘイト・スピーチ!

**ウィングスきょうと 127** (京都市男女共同参画推進協会刊, 2015. 4)

図書情報室新刊案内

『犯罪報道におけるジェンダー問題に関する研究 ジェ

ンダーとメディアの視点から』(四方由美著)／『大黒柱マザー』(小島慶子著)

**ウィングスきょうと 128** (京都市男女共同参画推進協会刊, 2015. 6)

図書情報室新刊案内

『女性はずなぜ活躍できないのか』(大沢真知子著)／『デートDV・ストーカー対策のネクストステージ—被害者支援/加害者対応のコツとポイント』(伊田広行著)

**解放新聞 2710号** (解放新聞社刊, 2015. 4. 13) : 90円  
ノンフィクションからの警鐘 6 山下祐介著『地方消滅の罌』音谷健郎

ぶらくを読む 94 靴職人の生活と矜持—手縫い靴の歴史と部落 湧水野亮輔

**解放新聞 2711号** (解放新聞社刊, 2015. 4. 20) : 90円  
リバティおおさかへの支援を広げよう

今週の1冊 『福島原発、裁かれないでいいのか』(古川元晴・船山泰範著)

本の紹介 『虚偽自白はこうしてつくられる 狭山事件・取調べ録音テープの心理学的分析』(浜田寿美男著)

**解放新聞 2712号** (解放新聞社刊, 2015. 4. 27) : 90円  
「リバティおおさか」への攻撃は「戦争する国」づくりへの第一歩

**解放新聞 2713号** (解放新聞社刊, 2015. 5. 4) : 90円  
本の紹介 内田龍史編著『部落問題と向きあう若者たち』

**解放新聞 2714号** (解放新聞社刊, 2015. 5. 11) : 90円  
今週の1冊 内田樹・白井聡著『日本戦後史論』

**解放新聞 2715号** (解放新聞社刊, 2015. 5. 18) : 90円  
ノンフィクションからの警鐘 7 阿部彩『子どもの貧困』

## 事務局よりお知らせ

◇2015年度部落史連続講座(前期)が終了しました。毎回多くの方々が参加され、熱心に聴いてくださいました。後期は11月から12月にかけて3回の予定をしています。詳細は次号でお知らせいたします。  
◇本年7月で、京都部落史研究所から資料センターに改組して15年になりました。また、ちょうどセンター通信も40号ということで、発足時の「Memento」からの総目次を掲載しました。どうぞご利用ください。  
尚、すべての記事・論文はホームページ上で読むことができます。

◇ホームページのアドレスが右記の通り変わりました。 <<http://shiryo.suishinkyokai.jp/>>

□所在地 〒603-8151 京都市北区小山下総町5-1 京都府部落解放センター3階

□TEL/FAX 075-415-1032

□URL <http://shiryo.suishinkyokai.jp/>

□開室日時 月曜日～金曜日 第2・4土曜日 10時～17時(祝日・木曜(月2回)・年末年始は休みます)

□交通機関 市営地下鉄烏丸線「鞍馬口」駅(京都駅より約10分)下車 北へ徒歩5分